湘北 SDGs

Think Globally, Act Locally.

2023 年度　第 9 号

(通算第 15 号)

今回の発行人　簗瀬千詠

yanase@shohoku.ac.jp

学校法人ソニー学園　湘北短期大学　生活プロデュース学科

〒243-8501　厚木市温水 428　TEL:046-247-3131　FAX:046-247-3667

湘北短期大学の SDGs について
ご紹介するニュースレターです

～発行者からのお知らせ～

今年度から、Web サイト湘北 SDGs を開設し、授業や大学全体の取り組みを紹介しています。
ニュースレターでは、
Web サイトに掲載した記事の中から、
学科の授業や部門ごとの活動を、
カテゴリー別にまとめて紹介していきます。

今後とも湘北短期大学は
地域に根ざした教育機関として
「Think　Globally, Act Locally」を
合言葉に、社会課題の解決にむけて
持続可能な未来の創り手を
社会に送り出してまいります。

SSS の授業の様子

【授業紹介】湘北スタートアップセミナーを開講（2024 年 2 月、3 月）

リベラルアーツセンターでは、2024 年度新入生対象の初年次教育科目として、2 月と 3 月に「湘北スタートアップセミナー」（以下、「SSS」と表記）を開講しました。SSS は「外部講師による特別講義」「大学生活を充実させるために」「本のカレンダー」「SDGs を通して世界を知る」「大学の授業で使う ICT」の 5 つのプログラムから構成しており、新入生が 4 月からスムーズに大学生活をスタートできるための内容となっています。

「SDGs を通して世界を知る」のプログラムでは、朝日新聞の「ペタッと SDGs 新聞学習ふせん」を用いた「新聞ワーク」と、イマココラボの「2030SDGs カードゲーム」を用いたグループワークを体験し、正解のない課題について SDGs を通して考えました。SDGs についてあまり知らないとどこか他人事のようにとらえている学生たちが多い印象でしたが、プログラムの最後に行った「未来のために自分ができること」を考えるワークでは、今の自分ができることはなんだろうと真剣に考える姿が見られました。

以下に受講後アンケートをいくつか抜粋し、紹介します。

・私は高校の時に SDGs のことをあまり詳しく勉強していなかったので、SDGs の名前は知っていましたが、どんな項目があるのか詳しく知りませんでした。でも先生の話や動画を通じて学ぶことができ、またゲームをしていく中で楽しく学ぶことが出来ました。話したことない人とも話せるきっかけになれて本当に楽しかったです！

・SDGs は始まってから 9 年経っているが、まだまだ世界は貧困、差別、環境問題、海洋汚染、水、等の 17 種類が、すべて果たせていないと思うので、ここからの 6 年間は、今日から、意識して、自分のできることをやりたいと思いました。

・班で 1 つ新聞の記事を選んでそれについて話し合った時に沢山の意見が出て周りと 1 つも意見が被らなかったので、色々な考え方があるんだなと思いました。自分だけの意見じゃなくてグループで意見を出し合うことで沢山の考えを知ることが出来てよかったです。

・（SDGs について）いまいち堅苦しいような自分には関係ないような雰囲気を感じていたけれど、今回の講義でみんなで意見を出し合ったりゲームを通して SDGs に触れることで感覚を通じて学べて SDGs が身近に感じ、日常生活で自分にもできることはあるだろうと思えました。

学生たちが、SDGs を遠い世界のできごとではなく身近なこととして捉えなおした様子がうかがえます。入学後にそれぞれの専門の学びを深めていく時に、SSS で学んだ「SDGs を通して考える」という視点がきっと活きてくるはずです。

（生活プロデュース学科　二見総一郎）

【授業紹介】「SNS とダイバーシティ」ひとりひとりが意識するアクション（2023 年 9 月～2024 年 1 月）

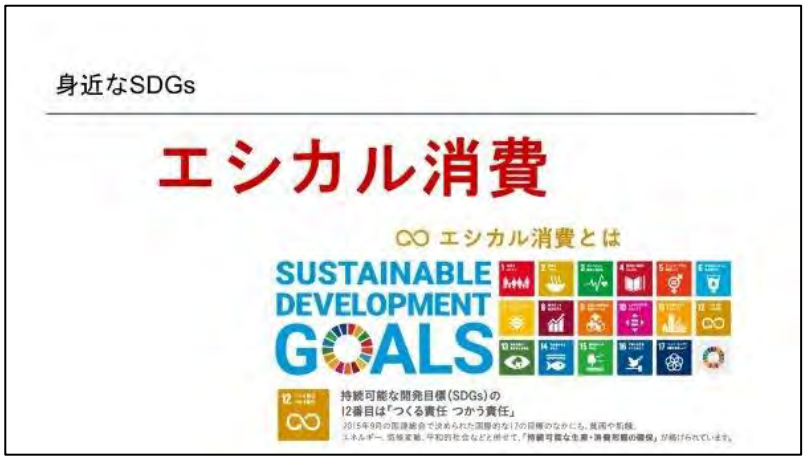
リベラルアーツ科目「SNS とダイバーシティ」（総合ビジネス・情報学科/生活プロデュース学科 1 年/2 年 選択科目）では、ジェンダーや福祉、生産活動や消費行動など、ゲストトークを交えた授業を行っています。

「女性活躍の実態」では、専業主婦を経て起業した（株）ossekay 代表取締役 Kay さんに、"アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）は、他人に対してだけではなく、性別を理由に自分自身にも限界を設けてしまうこと"とお話しいただき、「LGBTQ＋にまつわる課題と取組」では、出生時の性別に違和感を抱いた方が適合手術を受けるドキュメンタリー映画「女になる」を視聴後、出演者である中川未悠さんにトランスジェンダーとしての人生を語っていただきました。

学生からは、

- 女性は結婚か仕事か選ばなければならない時代があったと聞き驚いた。
  今は選択肢があるが、"女の子なんだから"と言われることが日常になっていることを変えたい。
- 自分が知らないだけで、ジェンダーに悩む人はたくさんいると知った。
  日常の言動が自然と配慮できるよう学び続けたい。

という意見が寄せられました。



また、「障がい者活躍推進の事例」では、障がい当事者向けビジネススクール D-Biz collage 代表取締役 渡邊佑さんに"働ければいい、という障がい者雇用の状況を変えていく"というお話をいただき、（株）MILK BOTTLESHAKERS 代表取締役 喜多泰之さんに「つくる責任 つかう責任」として、 "大量のエコバックは無駄であり、単なるエゴのバッグだ"と SDGs アクションの矛盾について伺いました。

https://loopach.com/

学生からは、

- 障がい者雇用の社員を「戦力外」のように扱うことは違うと感じた。
- 就職活動の段階から企業の SDGs の取り組みについて調べた方がいいと気付いた。そもそも湘北の活動を意識して知ろうと思った。

というコメントが多々ありました。

こちらの QR コードから、Loopach を紹介する Web サイトをご覧いただけます ↓

ゲストの皆様のおかげで、単に知識を得るだけではなく、現状を知り、自分たちの身近にも課題があること、ひとりひとりにできることは何かを考える機会になっていました。

（リベラルアーツセンター　非常勤講師　二宮朋子）